

## 多彩な発想

車を降りる前に走行距離と行き先をメモする習慣がある。とくに、距離にこだわるようになったのは、大げさに言えば地球の大きさを実感したいためである。メーターが 40,000 kmを超えるたびに、「あ〜地球を一周したのだ」と自分に言い聞かせ、ポルトガル大航海時代の船乗りたちの壮大な航路を想い感慨に耽る。シベリア鉄道で雪の中を全線（約 9,300 km）横断したときなども、自力でもないのに、自分は陸路地球を四分の一を一周したのだ、とひとり悦に入っていた。

ところで農耕民族であるわれわれ日本人は、どうも普通の居場所を離れると、まったく距離感が持てないようだ。地元を離れると不安にもなる。せめて自分の住まいの半径 500 kmには、どんな都市、名所、観光地があるかぐらい地図で調べ、日頃から距離感を意識しておいた方がよい。目からウロコが落ちること必定である。古来日本人は家から離れず、宿替えしたり、旅することさえ珍しかった。地球規模で物事を考える習慣もまれだ。これが日本人には、多彩で感性溢れる個性的な発想が生れない、遠因のひとつになっている。

アマゾン川と密林を抱えるブラジル人が、ブラジルは世界の真水の 1/5 を産出し、地球上の全酸素の 1/3 を供給していると自慢したり、メキシコでは薄暗い教室で、教師が室内は暗くても生徒は毎日トウモロコシを食べているから目は悪くならないなどと言い張るのは、ことの真偽は別にして、感覚的に身近に感じる臨場感と現実が日常生活の土台にあるからである。

日常生活の中でももっと悠久な宇宙の原理、自然の摂理、未知への探究心等を意識するようになれば、多彩な生活慣習も生まれ、生活自体にメリハリがついて一層愉しく、バラエティに富んだ話題やユニークな発想が生れてくる。それには普段からもっと万物に関心を抱き、身近な自然に触れる習慣をつけることが大切だ。